

利用者負担について

平成26年5月26日

利用者負担のイメージの位置付けについて

新制度における利用者負担については、世帯の所得の状況その他の事情を勘案して定めることとされており、現行の幼稚園・保育所の利用者負担の水準を基に国が定める水準を限度として、実施主体である市町村が定めることとなる。

利用者負担に関して国が定める水準は、公定価格と同様、最終的に平成27年度予算編成を経て決定するものであるが、新制度の円滑な施行に向けて、地方自治体、事業者等の関係者が準備を進められるよう、今般、公定価格の仮単価と合わせ、お示しするもの。

次頁以下にお示したイメージは、国が定める水準（国庫負担金（都道府県負担金）の精算基準としての位置付けとなるもの）であり、現行の私立施設の保育料設定を基礎として、以下の要素を基に設定した。

- ・ 教育標準時間認定（1号給付）を受ける子どもについては、現行の幼稚園就園奨励費を考慮
- ・ 保育認定（2・3号給付）を受ける子どもについては、現行の保育所運営費による保育料設定を考慮

国が定める水準については、1号給付、2・3号給付それぞれにおいて、施設・事業の種類を問わず、同一の水準としている。

教育標準時間認定を受けた子どもの利用者負担のイメージ（月額）

ここでお示している利用者負担のイメージは、国庫負担金（都道府県負担金）の精算基準としての位置付け（最終的な利用者負担はこの基準を上限として市町村が設定）

- 〔 ・ 現行の利用者負担の水準を基本。 〕

階層区分	推定年収	現行の保育料
生活保護世帯	-	0円
市町村民税 非課税世帯 (市町村民税所得 割非課税世帯含 む)	~ 270万円	9,100円
市町村民税 所得割課税額 77,100円以下	~ 360万円	16,100円
市町村民税 所得割課税額 211,200円以下	~ 680万円	20,500円
市町村民税 所得割課税額 211,201円以上	680万円~	25,700円



階層区分	利用者負担
生活保護世帯	0円
市町村民税 非課税世帯 (市町村民税所得 割非課税世帯含 む)	9,100円
市町村民税 所得割課税額 77,100円以下	16,100円
市町村民税 所得割課税額 211,200円以下	20,500円
市町村民税 所得割課税額 211,201円以上	25,700円

~ : 第1階層を除き、前年度分の市町村民税の区分が右の区分に該当する世帯

現行の保育料：実際の保育料等の平均値から幼稚園就園奨励費補助の単価を差し引いたもの。

~ : 現行の階層区分を基本として市町村民税額を基に階層区分を設定。

ただし、給付単価を限度とする。

なお、現在、市町村が定める利用者負担額よりも低い保育料を設定している幼稚園については、新制度への円滑な移行の観点から、一定の要件の下で経過措置を講ずる

保育認定を受けた子ども（満3歳以上）の利用者負担のイメージ（月額）

ここでお示している利用者負担のイメージは、国庫負担金(都道府県負担金)の精算基準としての位置付け(最終的な利用者負担はこの基準を上限として市町村が設定)

- ・保育標準時間認定を受けた子どもは現行の利用者負担の水準を基本、保育短時間認定を受けた子どもは、「0.7兆円の範囲で実施する事項」の整理に従い、保育標準時間認定を受けた子どもの1.7%を基本に設定

階層区分	推定年収	現行の費用徴収基準
生活保護世帯	-	0円
市町村民税非課税世帯	~260万円	6,000円
市町村民税課税世帯	~330万円	16,500円
所得税額40,000円未満	~470万円	27,000円
所得税額103,000円未満	~640万円	41,500円
所得税額413,000円未満	~930万円	58,000円
所得税額734,000円未満	~1130万円	77,000円
所得税額734,000円以上	1130万円~	101,000円



階層区分	利用者負担	
	保育標準時間	保育短時間
生活保護世帯	0円	0円
市町村民税非課税世帯	6,000円	6,000円
市町村民税課税世帯(所得税非課税世帯)	16,500円	16,300円
所得割課税額97,000円未満	27,000円	26,600円
所得割課税額169,000円未満	41,500円	40,900円
所得割課税額301,000円未満	58,000円	57,100円
所得割課税額397,000円未満	77,000円	75,800円
所得割課税額397,000円以上	101,000円	99,400円

~ : 第1階層及び第4~第8階層を除き、前年度分の市町村民税の区分が右の区分に該当する世帯

~ : 第1階層を除き、前年分の所得税課税世帯であって、その所得税の区分が右の区分に該当する世帯

ただし、保育単価を限度とする。

~ : 現行の階層区分を基本として市町村民税額を基に階層区分を設定。

ただし、給付単価を限度とする。

保育認定を受けた子ども（満3歳未満）の利用者負担のイメージ（月額）

ここでお示している利用者負担のイメージは、国庫負担金(都道府県負担金)の精算基準としての位置付け(最終的な利用者負担はこの基準を上限として市町村が設定)

・保育標準時間認定を受けた子どもは現行の利用者負担の水準を基本、保育短時間認定を受けた子どもは、「0.7兆円の範囲で実施する事項」の整理に従い、保育標準時間認定を受けた子どもの1.7%を基本に設定

階層区分	推定年収	現行の費用徴収基準
生活保護世帯	-	0円
市町村民税非課税世帯	~260万円	9,000円
市町村民税課税世帯	~330万円	19,500円
所得税額40,000円未満	~470万円	30,000円
所得税額103,000円未満	~640万円	44,500円
所得税額413,000円未満	~930万円	61,000円
所得税額734,000円未満	~1130万円	80,000円
所得税額734,000円以上	1130万円~	104,000円



階層区分	利用者負担	
	保育標準時間	保育短時間
生活保護世帯	0円	0円
市町村民税非課税世帯	9,000円	9,000円
市町村民税課税世帯(所得税非課税世帯)	19,500円	19,300円
所得割課税額97,000円未満	30,000円	29,600円
所得割課税額169,000円未満	44,500円	43,900円
所得割課税額301,000円未満	61,000円	60,100円
所得割課税額397,000円未満	80,000円	78,800円
所得割課税額397,000円以上	104,000円	102,400円

~ : 第1階層及び第4~第8階層を除き、前年度分の市町村民税の区分が右の区分に該当する世帯

~ : 第1階層を除き、前年分の所得税課税世帯であって、その所得税の区分が右の区分に該当する世帯

ただし、保育単価を限度とする。

~ : 現行の階層区分を基本として市町村民税額を基に階層区分を設定。

ただし、給付単価を限度とする。